



エコアクション21<sup>®</sup>  
認定番号 0005414

# 環境経営レポート 2024年度版

対象期間: 2024年4月～2025年3月

発行日: 2025年8月1日



北陸ダイセキ 株式会社

# I. 事業活動の概要

## (1) 事業者名及び代表者名

名 称	北陸ダイセキ 株式会社
代表者名	代表取締役 三島 克也

## (2) 所在地

本社営業所	〒920-0377 石川県金沢市打木町東302番地2 TEL (076)249-6363 FAX (076)249-9337 E-mail daiseki@m2.spacelan.ne.jp HP http://hokuriku-daiseki.com
第二工場	石川県金沢市打木町東1463番3

## (3) 環境管理責任者及び担当者の連絡先

管理責任者	三島 克也
連絡先	TEL (076)249-6363 FAX (076)249-9337 E-mail k_daiseki@m3.spacelan.ne.jp

## (4) 事業規模及び事業内容

設立年月	昭和45年9月
資本金	2,100万円
売上高	992百万円
従業員数	18名
延べ床面積	2,166㎡
事業内容	
◎石油・化学	
・離型剤	ダイセキ パネロールシリーズ(コンクリート離型剤) ダイセキ プラコートシリーズ(プラスチック離型剤)
・工業用潤滑油	特殊工作油剤・各種切削油 ダイセキ プレスオイル(トランスファーマシン等各種プレス用オイル)
・小売、卸売	燃料油販売(灯油等) 工業用・自動車用潤滑油販売
・防錆油	ダイセキ プルーフ
◎資源リサイクル	
・潤滑油系再生	スピンドル油、タービン油、油圧油等の再生業務
・廃油からの加工油製造	
・廃油からの再生燃料製造	
◎産業廃棄物処分業	
◎産業廃棄物収集運搬業	
◎環境メンテナンス	
・石油タンククリーニング	
・分離槽・側溝・廃水ピットの清掃	
・流出油回収作業ならびに清掃	
◎一般貨物自動車運送事業	



(5) 許認可

県・市	業種	積替保管	許可取得年月日 及び有効期限	許可番号	産業廃棄物の種類														
					燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラ	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器	がれき類	ばいじん
金沢市 (優良)	中間処理 (濾過・油水分離・混合)	一	令和4年7月22日 令和11年7月1日	第06020004101号		○	○		○										
金沢市 (優良)	収集運搬	有	令和4年7月22日 令和11年7月1日	第06010004101号	○	●	●	○	●	●	○	○	○	○	○	●	●	○	○
金沢市 (優良)	収集運搬 (特管)	有	令和5年4月7日 令和12年3月29日	第06060004101号		○	○	●	○										
石川県 (優良)	収集運搬	無	令和4年7月14日 令和11年7月8日	第01703004101号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
石川県 (優良)	収集運搬 (特管)	無	令和5年4月18日 令和12年4月17日	第01754004101号		○	○	○	○										
富山県 (優良)	収集運搬	無	令和2年7月28日 令和9年7月27日	第01602004101号		○	○		○	○					○	○			
富山県 (優良)	収集運搬 (特管)	無	令和7年2月26日 令和14年2月4日	第01656004101号		○	○	○	○										
福井県 (優良)	収集運搬	無	令和2年9月30日 令和9年9月29日	第1802004101号	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
福井県 (優良)	収集運搬 (特管)	無	令和7年3月19日 令和14年2月24日	第01852004101号			○	○	○										

●: 積替え・保管を含む

(6) 中間処理の量

(単位:トン)	2022年度	2023年度	2024年度
廃油	66	103	62

(7) 収集運搬の量

(単位:トン)	2022年度	2023年度	2024年度
産業廃棄物	2,741	2,837	2,968

(8) 車両の種類と台数

キャブオーバ・・・3台、タンク車・・・7台、清掃車・・・1台、ライトバン・・・6台



(9) 処理施設の種類・処理能力、積替え保管の種類・面積

【本社営業所】

取扱廃棄物の種類

廃油

- ・濾過施設 16t/日(8時間)
- ・油水分離施設 I 1.98m<sup>3</sup>/日(8時間)

積替え保管する産業廃棄物の種類

汚泥、廃油、廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず

- ・積替え場所の面積 24.0m<sup>2</sup>
- ・保管場所の面積 7.7m<sup>2</sup>
- ・保管上限量 0.9m

【第二工場】

取扱廃棄物の種類

汚泥、廃油、廃アルカリ

- ・油水分離施設 II 5.9m<sup>3</sup>/日(8時間)
- ・混合施設 20m<sup>3</sup>/日(8時間)

積替え保管する産業廃棄物の種類

廃油、廃アルカリ、廃プラスチック類、金属くず

- ・積替え場所の面積 17.1m<sup>2</sup>
- ・保管場所の面積 20.5m<sup>2</sup>
- ・保管上限量 0.9m

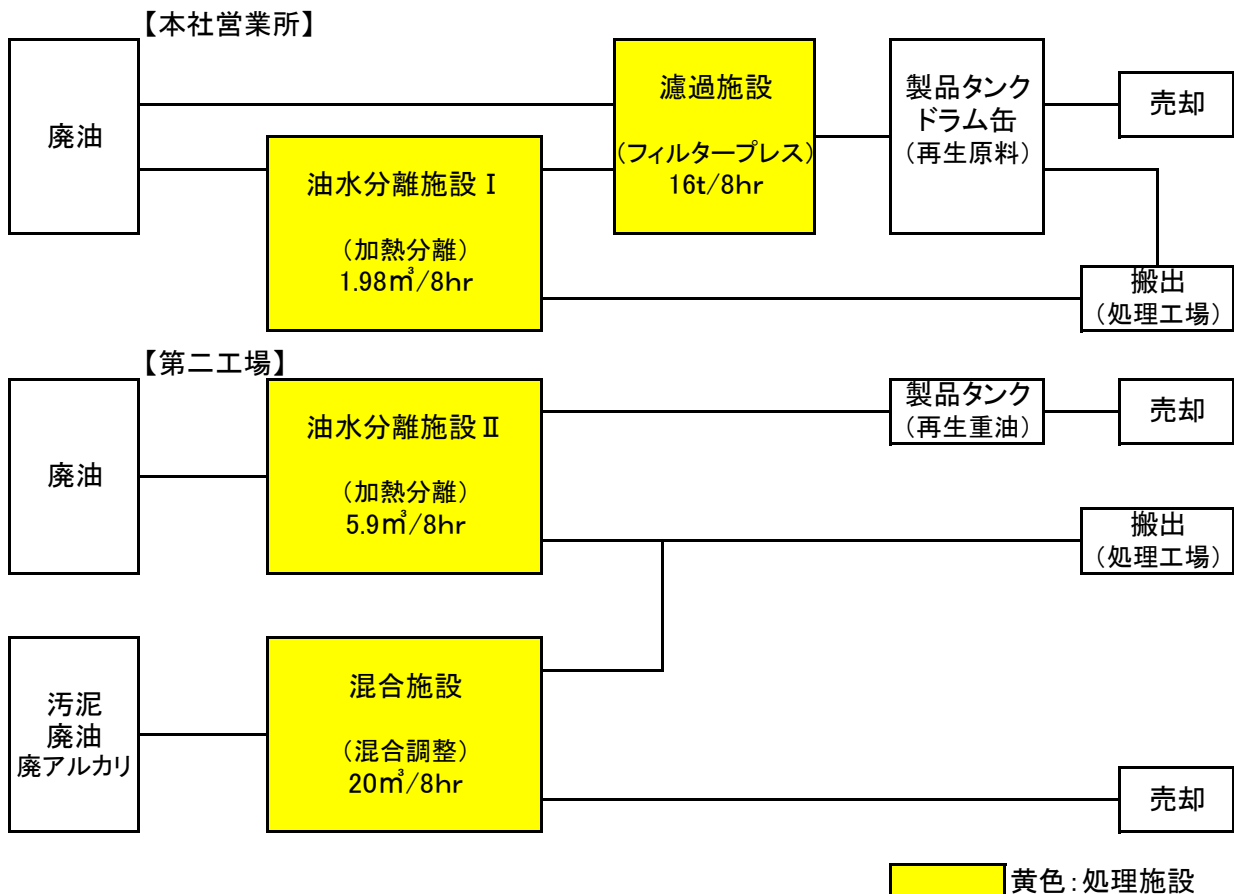
廃酸(有害)

- ・積替え場所の面積 17.1m<sup>2</sup>
- ・保管場所の面積 10.5m<sup>2</sup>
- ・保管上限量 1.8m



(10) 対象範囲は全組織、全活動、全従業員

(11) 処理工程図



## II. 環境経営方針

# 環境経営方針

### 【基本理念】

当社は、「時代感」と「構想力」をもって産業廃棄物の適正処理を行うと共に産業廃棄物の収集・運搬ならびに循環資源回収の一翼を担うことにより、社会に貢献することを目指して行動します。

### 【基本方針】

北陸ダイセキ株式会社は、産業廃棄物の中間処理及び収集運搬、またコンクリート離型剤、工業用潤滑油等の石油製品の販売において下の基本方針に基づき、エコアクション21を実践するとともに継続的に改善を図ります。

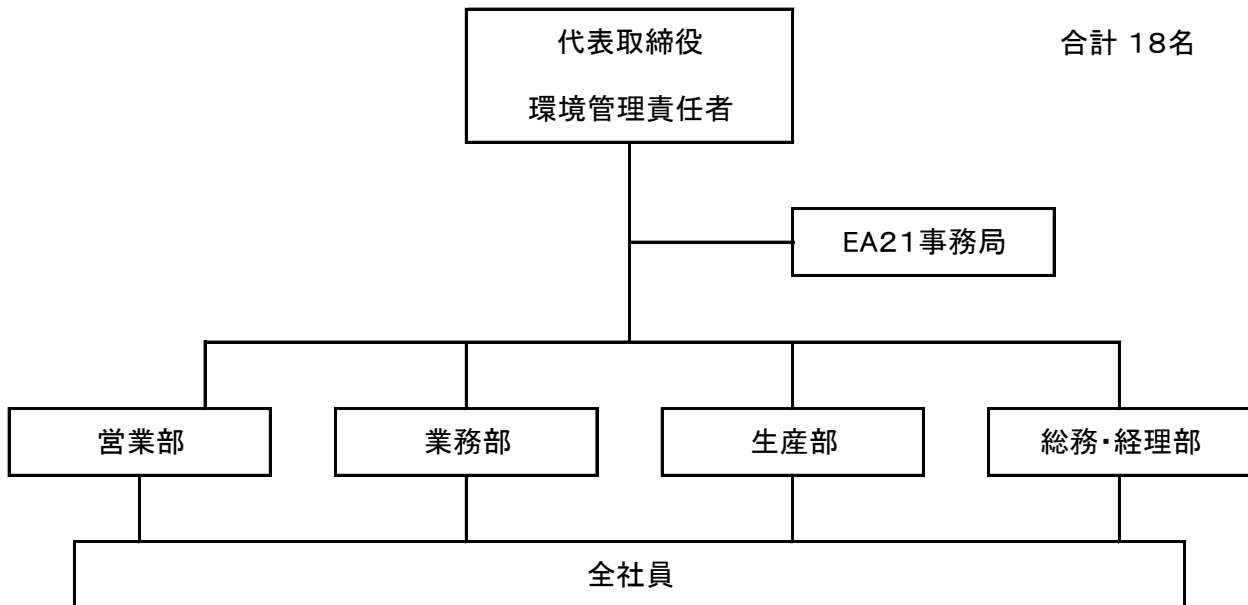
- ・石油製品の販売を通して、環境配慮型製品・サービスの提案を行い、環境負荷の軽減に努めます。
- ・廃油のリサイクル処理を通じて、排出事業者の環境負荷削減に寄与します。
- ・収集・運搬車両のエコドライブの実践により排気ガスの排出抑制及び二酸化炭素の排出量削減に努めます。
- ・環境に関する法令を順守します。
- ・全従業員に対してこの基本方針を周知徹底するとともに、関連会社にも認識してもらうよう努めます。

2020年4月1日

北陸ダイセキ株式会社  
代表取締役 三島 克也

### Ⅲ. エコアクション21推進体制の構築

2024年4月1日現在



合計 18名

[ 環境経営システム 役割・責任・権限・使命 ]

代表取締役 環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理
	・環境経営方針の策定、見直し及び決定
	・環境経営方針の社員への周知
	・環境経営実施に必要な資源(人・物・金)の用意
	・環境実施体制の構築
	・環境経営目標・環境経営計画書の作成、承認
	・環境経営計画の推進
	・環境関連法規等の取りまとめ確認、承認
	・社員に対する教育訓練の実施
	・環境経営目標・環境経営計画の達成状況の確認
EA21事務局	・環境経営レポートの承認
	・代表者による全体の評価と見直しの実施
	・環境活動の実績集計
	・各種文書、記録の作成・管理
部門責任者	・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
	・環境経営レポートの作成・管理
	・環境経営方針の周知徹底
全社員	・環境経営計画の実施
	・環境経営目標の達成状況の確認
全社員	・方針、計画を理解し環境への取り組み実施

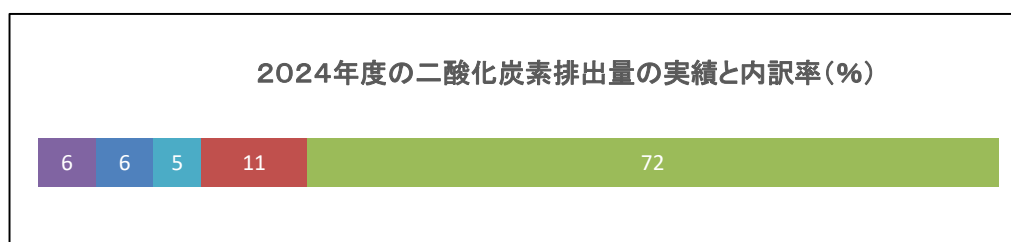
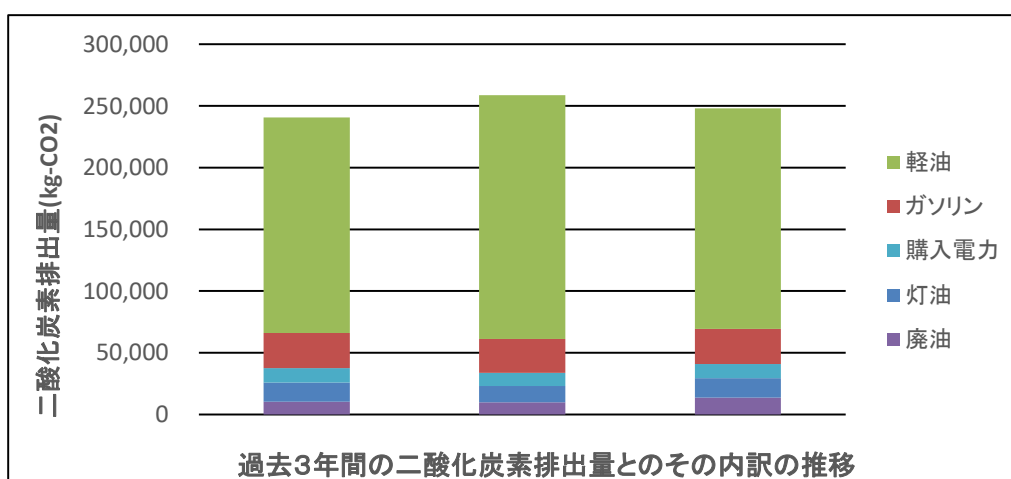
## IV. 過去の実績と環境経営目標

### 過去3年間の実績

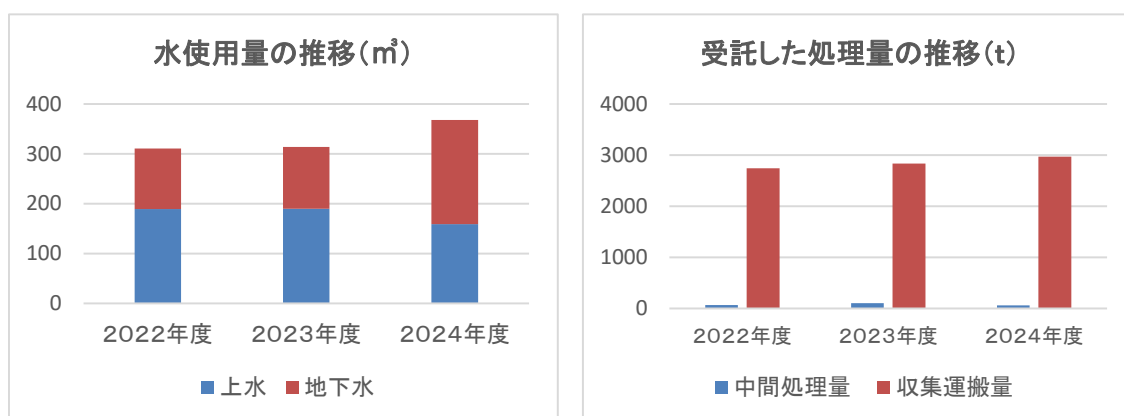
	単位	2022年	2023年	2024年
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	240,775	258,748	248,224
収集運搬量	t	2,741	2,837	2,968
有価購入の廃油運搬量	t	2,821	2,776	2,604
収集運搬量合計	t	5,562	5,613	5,572
二酸化炭素原単位	kg-CO <sub>2</sub> /t	43.3	46.1	44.5
中間処理量	t	66.8	103.5	62.2
自社廃棄物排出量	t	3.0	8.4	12.2
リサイクル率	%	99.5	99.6	99.0
水使用量	m <sup>3</sup>	311	314	368

※購入電力の排出係数は0.526(kg-CO<sub>2</sub>/kWh)を使用。

- ①二酸化炭素排出量は低燃費車の導入やアイドリングストップ・効率の良いルート配送などの取組みを実施した為に減少しましたが、有価廃油の運搬量が減ったのも原因の一つです。  
 ②本社工場、第二工場のボイラー稼働率を良くし、廃油の分別を細かくしたのが良かった。  
 ※二酸化炭素排出量(運搬量比) = 二酸化炭素排出量 / (収集運搬量 + 有価購入の廃油量)  
 ③リサイクル率は廃油引取り時の分別の徹底により目標通り。  
 ※リサイクル率 = 再資源化量 / 中間処理量



## 過去3年間の実績



## 今後3年間の目標

	単位	基準年 (2022年実績)	2023年	2024年	2025年
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	240,775	252,813	265,453	270,564
収集運搬量	t	2,741	2,823	2,907	2,994
有価購入の廃油運搬量	t	2,821	2,877	2,934	2,992
収集運搬量合計	t	5,562	5,700	5,841	5,986
二酸化炭素原単位	kg-CO <sub>2</sub> /t	43.3	44.4	45.4	45.2
中間処理量	t	66.8	67.3	67.8	68.3
自社廃棄物排出量	t	3.0	7.4	7.4	7.4
リサイクル率	%	99.5	99	99	99
水使用量	m <sup>3</sup>	311	350	350	350

- ① 二酸化炭素の排出量は2022年度基準に毎年5%増やしていく予定。  
ボイラーの稼働に関しては、第一工場は生産の効率化に注力し、第二工場は有価廃油の分別を徹底し、ボイラー稼働率を抑え、また低燃費車の導入を進める。
  - ② 廃棄物排出量は処理受託分のみで2022年度を基準に0.5t/年ずつUPしていくものとする。
  - ③ 自社廃棄物排出量は過去からの目標である7.4t/年を目標にする。
  - ④ リサイクル率は2022年度と同じ率を継続する考えで2023年以降は99%を目標にする。  
(受託した処理量に対してのリサイクル率・再資源化量/中間処理量)
  - ⑤ 有価物の廃油に関しては2022年度基準に毎年2%増やしていくものとする。
  - ⑥ 収集運搬量の設定は2022年度基準に毎年3%増の予定。  
営業力強化と回収率を高め、引取り数量のアップと二酸化炭素の排出を抑える。
  - ⑦ 水は量的には少なく特に環境負荷が大きいとは認識していない。2022年度以降は350m<sup>3</sup>を目標とする。
  - ⑧ グリーン購入に関しては活動計画に記載し、特に数値目標は設定しない。
- ※ 二酸化炭素排出量(運搬量比) = 二酸化炭素排出量 / (収集運搬量 + 有価購入の廃油量)

## V. 主要な環境経営計画の内容

目標を達成するための取組、評価、次年度の取組み

### (1) 二酸化炭素排出量の削減取組



	具体的な取組内容	取組結果・評価	次年度
自動車燃料	・アイドリングストップ、エコドライブ (急発進、急加速、急ブレーキの防止)	○	継続
	・自主点検・整備の実施	○	
	・各車両のエアークリーナーの清掃	○	
	・安全運転の徹底 最高速度の厳守、車間距離の保持	○	
	・トランク、荷台の整理と余計な荷物を放置しない	○	
	・エコタイヤ、エコバッテリーの導入	○	
電気	・昼休み及び未使用時、不要な照明、人のいない区域の 消灯の実施	○	継続
	・残業時の不要な照明の消灯	○	
	・エアコンの温度の設定を季節に応じて調整する	△	
	・パソコンを長時間使用しない時は電源をOFF・スリープに する	○	
	・未使用機器のコンセントを抜く	△	

### (2) 廃棄物排出量の削減取組

	具体的な取組内容	取組結果・評価	次年度
産業廃棄物	・当社の主な業務はお客様から廃油の処理を依頼され 適正に処理する事です	○	継続
	・出来るだけ精度の高い製品を作るために品質管理の 徹底とリサイクル率を向上させていきます	○	
	・焼却及び埋立ごみを削減し、コストパフォーマンスが良い リサイクル業者の情報を収集し再資源化率が向上する ように努める	○	

### (3) その他の活動・取組取組

	具体的な取組内容	取組結果・評価	次年度
水使用量	・蛇口の止め忘れに注意する	○	継続
	・トラックの洗浄時には節水に心がける	○	
	・雨水を利用するようにする	×	
一般廃棄物	・ゴミの分別(再資源化ごみ)に心がけ再資源化率が向上 するように努める	○	継続
	・詰め替え可能な製品や、簡易包装の商品を利用する	○	
交通事故、交通公 害の防止、諸法規 の遵守	・運行管理の徹底 飲酒運転、過労運転、免許の管理	○	継続
	・各種研修に参加する	○	
教育・訓練の実施	・毎月1回の定例会を実施しコミュニケーションを図り、教育 の場とし記録を残す事とする	○	継続
	・エコアクション21を適切に実施する為、環境方針・環境目 標及び必要な環境活動目標を全従業員に周知、徹底する	○	
	・掲示板を取り付ける	○	

○取組めた △十分ではないが取組めた ×取組めなかった

## VI. 2024年度の目標・実績・評価

2024年4月～2025年3月

	単位	2024年目標	2024年実績	実績/目標	取組結果・評価
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	265,453	248,224	0.94	○
収集運搬量	t	2,907	2,968	1.02	○
有価購入の廃油運搬量	t	2,934	2,604	0.89	×
収集運搬量合計	t	5,841	5,572	0.95	△
二酸化炭素原単位	kg-CO <sub>2</sub> /t	45.4	44.5	0.98	○
中間処理量	t	67.8	62.2	0.92	×
自社廃棄物排出量	t	7.4	12.2	1.65	×
受託分リサイクル率	%	99	99.0	1.00	○
水使用量	m <sup>3</sup>	350	368	1.05	×

評価基準 ○:達成 △:1%～10%ほぼ達成 ×10%以上未達

※二酸化炭素排出量は燃料の比率が多いため、アイドリングストップやエコドライブを徹底した。

※収集運搬量、有価廃油は運搬量が減った為に目標には届かなかったため。

※廃油処理受託分はスポットでの処理費廃油がなかった為。

※自社廃棄物排出量は水分量の多い廃油が増えたのと、同時に容器等の処分が増えた。

※廃油のリサイクル率が上がったのは引取時に分別を徹底した事により率が良くなった。

※水の使用量はボイラーの使用が多くなった為。

## VII. 環境関連法規の順守評価と違反・訴訟等の有無

法規名	順守事項	当社の順守内容	確認	評価
廃棄物処理法	委託契約の締結	契約書 (許可証、有効期限のチェック)	6月	○
	マニフェスト管理	マニフェスト管理台帳 90日、180日の管理	6月	○
	収集運搬基準	運搬車両の表示 マニフェストの携帯	4月	○
	保管基準	保管場所の掲示 保管量限度の順守	4月	○
	処分・保管基準	保管場所の掲示 保管量限度の順守	4月	○
	実績報告書	中間処理・収集運搬の報告 昨年度実績は(4-6)で報告	6月	○
家電リサイクル法	家電製品	廃棄時の適切な処理	4月	○
自動車リサイクル法	業務用自動車	車検・買替時リサイクル料支払	4月	○
フロン排出抑制法	業務用エアコン管理	機器の簡易点検の実施 廃棄時の適正な処理	5月	○
消防法	定期点検	消火器、貯蔵所	9月	○
道路運送車両法	車両の管理	日報、点呼簿 点検・整備	5月	○

○順守できた

環境関連法規への違反、訴訟又は苦情等はありません。なお、関係当局よりの違反、改善命令等の指摘も過去一度もありませんでした。  
環境関連法規・危険物関係法令に関しては定期的に順守状況を確認しています。

## VIII. 代表者による全体評価と見直しの結果

二酸化炭素排出量の節減において収集運搬等に使用する軽油の使用量節減の取組みとして、今年度も再度車両の点検や効率的運転、アイドリングストップ、エコドライブを徹底する事を行った。次年度もタコグラフ等のデータを確認してエコ運転を推進する。二酸化炭素の排出は目標通りに収まったのは日々の節減の意識が高まったおかげである。有価購入廃油運搬量の数量が去年実績に対して減っているのも今期は数量増加を強化していく。

本社工場の自社製造製品や第二工場の油水分離タンクに使用するボイラーの燃料(灯油)、ボイラー水は来年度も少しでも使用量が減らせるように効率よく稼働させるよう努力する。水の使用量に関しては今期同様に目標を350m<sup>3</sup>にする。

廃棄物に関してリサイクル率は今期同様に分別を継続、取組をしていきます。環境方針、環境目標に関してはこのまま継続して行きます。

2025年度の取組としては、車両をハイブリット等、低公害車の導入に務めながら徹底的なアイドリングストップ、エコドライブに注力して取組を強化することを指示しました。今まで以上に従業員ひとり一人がしっかりとエコアクション21の取組みに理解し、全員で達成に向けた活動継続に取り組んでいきます。

2025年6月1日  
代表取締役 三島 克也